

H30年3月定例会

「平成26年12月、平成27年11月、平成29年8月の計3回、住民アンケートを実施。震災後のアンケートは、白水地区で77%の回答があり、統合が必要と思うは55・9%、思わないが20・1%であった」

「統合については、これまで南阿蘇村立小・中学校適正規模等審議会で議論してきた。白水地区の小学校再編は、中学校統合の進捗、財政状況等を勘案し、継続審議とし、平成26年5月に第1回目の審議会が開催され、それ以後23回の協議検討を行ってきた」

南阿蘇村は、平成17年2月に合併した。その後、少子高齢化の進展により、平成24年4月に長陽地区3小学校が統合し「南阿蘇西小学校」が開校、平成28年4月には「南阿蘇中学校」が統合中学校として開校した。その間もアンケート調査等を行ってきた白水地区3小学校の統合に動きがあり、今回の議会において松野教育長から説明がなされた。

白水地区の3小学校 統合はどうなる？

H30年3月定例会（合同常任委員会）

『白水地区小学校は現在、2学校で複式学級が3学級ある。その解消の為だけでなく、将来の児童数の推移を考慮し、**早急に再編し、教育環境の充実と地域に応じた学級規模の確保を図るべき**』

（概要）※答申からの抜粋



これらの経緯を踏まえ、
平成30年3月7日
審議会から第2次答申が提出
提出者
・橋本 功 審議会会長
・太田 吉浩 小委員会座長

H30年3月定例会（合同常任委員会）

『配置時期は、2018年度以降、2022年度までに再編を図ることが望ましい』
平成30年3月15日
教育委員会を開催し、教育長及び4人の教育委員で答申内容を検討した結果、答申を支持・尊重することと一致。

『この課題の解消を図っていくことが喫緊の課題であることを念頭に置き、最善の選択として3小学校の再編を進めていくことで委員全員の見解が一致した』
『通学距離・通学時間を考慮した学校配置を考えれば、白水地区の中央部で、既存の施設利用を前提に白水小学校に配置することが望ましい』

『少子化の更なる進展による学校の小規模化に伴い、集団の中で切磋琢磨しながら学んだり、社会性を高めたりすることが難しい等の課題の顕在化が懸念されること等、教育的な視点に立つことが第一義的な課題にあった』

H30年3月定例会（合同常任委員会）

山室昭憲議員

「答申では、2022年度までとあるが、それより前倒しで統合を進めるよう要望する」

松野教育長

「統合により母校がなくなる寂しさも、学校が地域の拠り所であることも理解している。しかし、未来を担う子どもたちの為を考えれば、ある程度の学校規模で、多様な考えを学び切磋琢磨し、自己形成の機会を作っていくべきだ」

平成30年3月16日

松野教育長から吉良村長へ第2次答申の進達が成された。

統合議論のバトンは、行政に渡った。今後、行政が、いつの時期に統合案を議会に提出してくるかがポイントになる。子どもたちの成長は止められない。行政も議会も、責任とスピード感を自覚した議論が必要になることは間違いない。